

くらしの掲示板

福祉・介護のしごと出張相談

福祉のしごとについて詳しく知りたい方、興味のある方の相談コーナーを設置します。

〈日時〉12月18日④ 13:30～15:00

〈場所〉ハローワーク能登

☑石川県福祉人材センター

☎076-234-1151

参加無料・職場体験しませんか

〈対象者〉「福祉・介護」分野への就職に関心がある方

※福祉の資格・経験等は問いません。

〈活動内容〉石川県内の社会福祉施設（高齢者・障害者・児童）での職場体験（体験先のプログラムにより異なります。）

〈申し込み・問い合わせ先〉

石川県福祉人材センター

☎076-234-1151

林業退職金未受領者を探しています

林業退職金制度（林退共）に加入していたが、退職金をまだ受け取っていない方を探しています。

以前、林業の仕事をしていたが、ご自身が林退共へ加入していたか分からない方についてもお調べいたします。

また、罹災された共済契約者および被共済者の皆さまに対し、各種手続き（共済手帳の紛失、退職金の請求等）の必要が生じた場合は、速やかに対応いたしますので、ご相談ください。くわしくはホームページでもご案内しています。

「林退共」で検索して下さい。

林退共

検索

☑林業退職金共済事業本部

☎03-6731-2887

放送大学4月生募集

平成27年度第1学期（4月入学）の学生を募集します。放送大学はBSテレビ放送やインターネットを通して学ぶ正規の通信制の大学です。

大学（学士）卒業を目指す方や、好きな科目を1科目だけ勉強したい方も入学ができます。（入学試験はありません。）

〈出願期間〉2月28日まで
資料を無料で差し上げています。

〈入学説明会〉

日程

・1月17日④、18日④

・2月7日④、8日④、14日④、15日④、21日④、22日④

時間 10:30

場所 石川学習センター

〈個別相談会〉随時開催（要電話予約）

☑放送大学石川学習センター

☎076-246-4029

12月の心配ごと相談日

■能都庁舎

9日④、19日④ 10:00～12:00

■笹ゆり荘

9日④ 10:00～12:00

■内浦福祉センター

10日④ 13:30～15:30

■小木活性化センター

22日④ 13:30～15:30

☑社会福祉協議会 ☎72-2322

12月の断酒会

断酒会は、お互いの体験談などを話しながら、断酒の継続ができるように取り組む会です。アルコールをやめたいのにやめられない方、アルコールの問題で困っているご家族の方、ぜひ一度、断酒会にご参加ください。

〈日時〉15日④ 14:00～15:00

〈場所〉能登北部保健福祉センター

☑能登北部保健福祉センター

☎0768-22-2011

12月の行政相談日

暮らしの中のさまざまな困りごと（登記、税金、年金、相続、遺言、債務等）について、総務省から委嘱された行政相談委員が無料で相談に応じます。気軽にご利用ください。

〈相談時間〉10:00～12:00

| 会場 | 日程 | 相談委員 |
|------|---------|------------------|
| 笹ゆり荘 | 12月16日④ | 廣橋義男 ☎76-0088 |
| 能都庁舎 | 12月19日④ | 吉岡梅子 ☎62-1000 |

☑総務課 ☎62-8510

12月のこころの健康相談

家庭や職場、学校における“こころ（精神）”の不安や悩みについてお気軽にご相談ください。訪問相談も応じています。前週金曜日までに予約が必要です。

■精神科医による相談

第1・2・4月曜日 1、8、22日

〈場所〉能登北部保健福祉センター

〈時間〉15:00～17:00

第3月曜日 15日

〈場所〉珠洲地域センター

〈時間〉15:30～17:00

■保健師や相談員による相談（随時）

平日（月～金）8:30～17:45

☑能登北部保健福祉センター

☎0768-22-2011

☎0768-84-1511（珠洲地域センター）

12月の法律相談日

4、11、18日 毎週木曜日

〈時間〉13:45～16:15

〈場所〉穴水町保健センター

相談前日午後5時までに電話にてご予約ください。先着5名（組）まで。
〈相談料〉30分以内：5,400円
※負担が困難な方で、法律援助資力基準に該当すれば、1回のみ無料。
クレサラ相談は初回無料。

☑金沢弁護士会 ☎076-221-0242

能登町何でも相談「カナリア」

家庭教育に関する悩み、家族からの暴力など、一人で悩みを抱え込まず相談してみませんか？

相談電話番号 ☎76-2874

毎週④・⑤10:00～14:00※祝日、年末年始は休み。

3月30日、デジアナ変換終了予定

平成27年3月で、テレビ放送のデジタルからアナログへの変換サービス（デジアナ変換）が終了し、アナログ受像機でテレビ放送が見られなくなります。ケーブルテレビにご加入の世帯で、アナログテレビ（ブ

ラウン管テレビ等）で番組を見ている方は、対策をお急ぎください。



- ①デジタルテレビに買い替える
- ②地デジチューナーを購入して、今お使いのアナログテレビに接続して視聴する

☑広報情報推進課 ☎76-8301

婚活クリスマスパーティー



お食事やゲームで楽しみましょう。

日時 12月21日④18:00～

送迎バス・能都庁舎17:30発

会場 国民宿舎能登うしつ荘

コミュニティーセンター

参加費 男性2,000円

女性1,000円

しめきり 12月15日④

☑能都サービス室 ☎62-8500



おまわりさんだよ
ほ～す君
年末年始特別警戒実施中



その相手、本当に息子さん？

- 電話番号が変わった
- 会社の金を使い込んだ
- 友人の保証人になった
- 株で失敗した
- 女性を妊娠させた。



必ず確認
家族・警察に相談しましょう

ほ～す君日記
宇出津防犯委員

指名手配被疑者捜査強化月間に、町内ショッピングセンターの来店者にチラシを配布して、捜査への協力を呼びかけました。



☑珠洲警察署 ☎82-0110
能登庁舎 ☎62-1334

有料広告

お手伝いします 素敵な暮らし

ホームセンタームサシ
FC能登店

営業時間 AM9:00～PM7:00

☎62-3634（宇出津新港2丁目24番地1）

いつでもご満足頂ける品揃えで、お客様のご来店をお待ちしています。

私たちの目指す店創り

- 一、豊富な品揃え
- 一、最新の品揃え
- 一、地域に合わせた品揃え
- 一、いつでも安心価格
- 一、明るく元気で笑顔の接客



有料広告

職員 募集

職場体験・見学・ボランティア
随時受付しております

◆介護職

◆看護職



社会福祉法人 寿福社会

ユニット型特別養護老人ホーム

みやび

輪島市町野町寺地 1027 番地

TEL 0768-32-0006

鈴屋入門時の想像図。手前が加藤吉彦、右が本居宣長。



酒垂神社宮司・加藤三千雄さんが先祖の旅路をたどった「千尋の浜草」を終了にあたって、加藤さんから改めて先祖・加藤吉彦の功績について寄稿いただきました。

本居宣長を三度も訪ね慕った 宇出津の国学者、加藤吉彦

宇出津の産土社、酒垂神社は酒樽に乗って漂着した神様を祀っているといういわれがあります。12代宮司加藤吉彦（1762～1836?）は、寛政7（1797）年5月8日、国学者の



源氏物語の注釈書「月の跡見」夕顔の巻

遺言どおりに

宣長の位牌を祀る

宣長と別れて2年後の享和元（1801）年、宣長は数え72歳で亡くなりました。これを聞き知った吉彦は大変悲しみ、『藤のかき葉一』に「享和のはしめのとし九月二十九日師の君本居大人身まかりたまふ」と残して、次の歌を詠んでいます。

「秋の夜の名残の風のさそひきて
雲隠にし君そかなしき」

当家の霊舎には本居宣長の位牌が祀られています。大ぶりの笏板に、宣長の遺言どおりに、「秋津彦瑞櫻根大人御霊」と記されています。宣長はこの位牌を一日中机の傍らに置き、和歌の道に精進し、毎年祥月命日には歌会を催し研鑽を積んでほしいと述べています。吉彦はその遺言どおりに、宣長命日に歌を詠んで偲んでいたことが『藤



加藤家に伝わる宣長の位牌。遺言の通りの文言が記され、命日の歌会で飾られたもの。

本居宣長に師事するために故郷を発ちました。

吉彦は宇出津から伊勢松坂までの紀行、鈴屋入門と松坂での生活、そして宣長との別れまでを『千尋の濱草』と題して、和歌をまじえた紀行文を書き遺しました。裏表紙の連載では、その道をたどった旅日記です。

吉彦は最初の訪問の2年後、寛政9（1799）年、再び松坂の宣長を訪ねて多くの写本を手掛けました。宣長の死後も松坂を訪ね、宣長の遺言を忠実に守りとおす人生だったようです。能登に住みながら伊勢の松坂に3度も赴き、宣長から直接の教えを受け、自身もその生涯に多くの著書、写本を残しました。

晩年に書かれた「月の跡見」45巻は、吉彦自身の集大成として著わした「源氏物語」の注釈書です。

また宣長との邂逅から著し始めた『藤のかき葉』「一」と「三」は（「二」を欠いています）、宣長に師事した塾生が、地元に戻ってどのような考え方ももって地域に活躍したかを考えるもので、極めて興味深い内容です。

吉彦の人生観を示し、能登を歌い上げる内容は、この仕事に生まれついたその意味を、我々に示してくれます。

のかき葉一、「三」で知ることができま

す。吉彦3度目の伊勢松坂行は、宣長の没3年後（文化元年・1804年）のことで、墓参を目的としたようです。

宣長からの書状

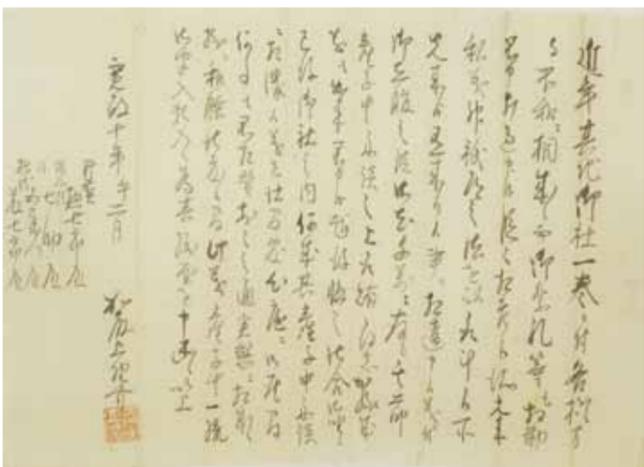
宣長が吉彦に宛てた手紙があります。寛政11（1799）年、宇出津・常椿寺の抜山と対面したことなどを伝えています。

吉彦はこの年の4月、再び宣長のもとに向かい、6月まで松坂に滞在しました。10日に門人料（授業料）1分を宣長に納めているので、帰郷はそのすぐ後と思われる。

宇出津へ帰った吉彦は、隣の常椿寺の抜山和尚や清水悟里、秦藤三郎、真脇久右衛門を督励し、松坂に向かわせたのであろうと思われま



先祖・吉彦も眺めたであろう、酒垂神社から見下ろす港町の風景



加藤吉彦が鶴町の有力者に当てて送った詫言状とその抄訳

近年当神社（鶴町）のことについて、皆様方と不和になつて祭礼も勤めず過ぎてしました。よくよく考えると、もと私が神道の法を推進めたために、前からのしきたりと違つていたので、在所の皆様が御立腹されたことは御尤もなことです。その節は氏子中とも相談申し上げていますので、これからはこのようなことがないよう後悔いたしてあります。（略）和睦いたしたく書面で申し上げます。

寛政十年二月 加藤上野介
肝煎 惣七郎 殿
組合頭 七助 殿
同 五左衛門 殿
惣代 藤七郎 殿

能登に残る史料から

うかがえる宣長の存在

当時の神社の祭礼は、きわめて仏教色の強いものでした。宣長は「直日の御霊」で、これを真つ向から否定して、祭礼は仏教や儒教に染まったものであつてはならないと主張しています。

寛政10年2月、鶴町地区の祭礼にあ

たり、宣長の思想に触発された吉彦は、祭りからの仏教色排除をもくろんだようです。結果、地元からの反発を受けて詫言状を当時の肝煎大町家などに入れています。

宣長との出会いを契機として、俳句から、宣長のいう「敷島の道」に転換し、国学や和歌に大きく比重を傾けていったようです。このことが宇出津の知識人に大きな影響を与えたと思われ